

重点取組名	集落営農型担い手の育成
普及活動担当	西条地方局 産業経済部 農政普及課 地域農業室 地域営農係
主要な活動地域・対象農業者	西条市小松町妙口原集落 農家戸数57戸 妙口原生産組合33戸（農用地面積46ha、内水田面積36ha）
取組結果・成果 <取組みのねらい>	<p>1、特定農業団体の設立 妙口原生産組合において特定農業団体への移行を決議（5月30日）。集落内の意向調査や集落座談会を通じて合意形成を図り、12月6日に農用地利用改善団体を設立。1月18日に特定農業団体移行に関する申請書を西条市に提出した。 この結果、平成18年4月4日に、県内で3番目、水田営農組織としては初めての特定農業団体として承認された。</p> <p>2、集落ビジョンの策定 集落座談会で検討を重ね、滋賀県甲賀市の「酒人ふぁーむ」をモデルとした集落一農場型の集落営農を目指すこととなり、集落内に潜在する人材の発掘しや、年齢や能力に応じて集落営農に参画できるような新たな取り組みの検討が始まった。また、妙口原生産組合では、設立2年目で当初試算を上回り経営内容が安定し、定年退職後のハレター希望など、安定した就業の場が確保できた。</p> <p>3、大規模化に伴う裸麦・大豆の生産性向上 大豆栽培の現地研修(8月)や農業試験場を招いて大豆栽培検討会(3月)を開催。地元畜産農家の堆肥購入と稲わらの販売による耕蓄連携を図った他、堆肥の投入、追肥の効果、麦播種機を利用した大豆の浅耕密植無中耕無培土栽培の実証圃を設置して栽培技術の向上を図った。 この結果・裸麦：作付面積18.6ha、単収333 k g / 10a、・大豆：作付面積14.9ha、単収209 k g / 10aとなり、さらに、大豆生産では堆肥を投入した圃場で収量・品質が優れことから、来年以降、堆肥を投入する面積を拡大することとした他、中耕培土の作業時間が1 / 3程度に省力化され、浅耕密植無中耕無培土栽培を来年度は5 ha程度取り組むこととなった。 また「平成17年産全国麦作共励会」において、全国農業協同組合連合会長賞を受賞するとともに、「平成17年度愛媛県大豆共励会」において最優秀賞を受賞、中国四国ブロック代表として平成17年度全国豆類経営改善共励会に推薦された。</p>
連携機関等	西条地域担い手育成総合支援協議会
取組の特徴や取組に際しての工夫	<p>1、関係機関が事前に、それぞれの役割から意見や考え方を十分に話し合い、方向性を同じにし、一体となって集落営農の推進を行った。</p> <p>2、定期的な現地普及指導や試験場等関係機関との連携による栽培技術の向上を図った結果、収量・品質がシュミレーションを上回り、収益が増加し、取り組み2年目で経営内容が安定した。</p> <p>3、特定農業団体の設立に向けて計画が途中で頓挫することのないよう、普及がスケジュール管理とタイムキーパー役を務め、適切な時期に集落座談会等で合意形成を図るなどの指導を行った。</p> <p>4、農用地利用改善団体等の説明パンフレットはできるだけシンプルなものを作り直して配布した。また、事前に予想される誤解を招かないための注釈の記述を行うなど、集落の実情に応じた分かりやすい説明の実施に努めた。</p>
【参考】	